

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2021.11.19

## JAL闘争を支える京都の会 News No.78

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

# すべての労働者の 不当解雇を許さない！

11月16日、JAL 165名を解雇したJAL稲盛和夫会長（当時：現在JAL名誉顧問）の地元の大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さんなど、11名に参加していただきました。JAL争議団からは神瀬麻里子さんに参加していただきました。

「きょうとユニオン」のOさんは「このJAL 165人の解雇撤回、不条理な解雇は許すわけにはいかないと、毎月1回、この大手筋商店街で情宣をおこなっている。JALで働いている労働者が理不尽にも10年前

165人が整理解雇された。解雇という形で生活が踏みにじられる、そのことは働いている労働者にとって非常に苦痛で理不尽なことである。経営が破綻したので整理解雇する。

その理由もいい加減なもので黒字を出していながら解雇していく、そういう相手のやり方が労働者にとってまさしく働きにくい職場である。『きょうとユニオン』も〇〇運送という職場でまだ入社して間もない労働者が懲戒解雇され、今、闘争中であるが、一方的にいろいろ理由をつけて、気に入らないという形で職場から排除しようとしている。やはり労働者は働き続けなければならない。労働組合が労働者の生活を守る、当たり前のことをやっているにもかかわらず、不当な解雇がまかり

り通っている。働いているものは、まさに生活が破綻する。その状況をいともたやすく経営者はつくり出す。正しいことを言っても、まったく聞く耳をもたない経営者。これを何とか皆さんの協力によって解雇撤回をしていきたい。職場の中では労働者一人一人が



主人公であって、経営者は単に経営権があるだけであって、労働者の生活まで破壊できる権利はない。私たちはこのＪＡＬの闘いを闘ってきている。これは単にＪＡＬの不当解雇撤回だけではなく、多くの人が解雇されているが、労働者の生活を守るためにおこなっている。８時間働いて生活できる、そういう賃金を保障さす、そういうことも労働組合は訴えているのであって、単に解雇だけを撤回しろということだけではなく、解雇を撤回して、なおかつ安定した職場を築いていくことを目指している。私たちはこの間１０年以上ＪＡＬの解雇を撤回せよと訴えてきている。こういう不条理な解雇は許せないという声を上げてもらう、そういうことが大切であると思う。『きょうとユニオン』も、京都の地域でいろんな職場で解雇、配転、雇止めを闘っている。共にがんばりたい。」とアピールしました。



ＪＡＬ原告団の神瀬さんは「ＪＡＬは２０１０年大晦日にパイロット８１名と客室乗務員８４名を整理解雇した。なぜＪＡＬは１６５名を解雇しなければならなかったのか。それは、ＪＡＬが２０１０年１月に経営破綻したからである。しかし経営破綻した原因は国の政策と放漫経営にあり、米国との貿易不均等是正のため必要のない１機２００億円のジャンボ機を１１３機も買わされたり、ニューヨークのホテルを買ったりしたからである。私たちは労働組合に結



集して安全でないものには安全でない、ダメなものにはダメと言ってきた。そういう労働組合が邪魔になり、この解雇に至ったということが、私たちの解雇を撤回させる裁判の中で明らかになってきた。伏見にお住まいの京セラの創始者である稲盛和夫さんは、私たちがＪＡＬを解雇になったときの最高責任者であるＪＡＬの会長であった。破綻以降、パイロット３８６名を新規採用しながら、解雇した８１名を復職させていない。客室

乗務員についても約６２００名を採用しながら８４名を戻していない。私たちのことは置き去りにされている。まじめに働いてきたベテランの乗務員と客室乗務員を無残にも解雇する、それがＪＡＬの実態である。ＪＡＬの憲法２８条違反が最高裁で断罪されたにもかかわらず、解雇が撤回される様子はまったくない。皆さんには、当時のＪＡＬの会長の稲盛和夫氏を見かけられたら、ぜひこの解雇撤回の声をお伝え願いたい。」と訴えました。

この大手筋商店街での宣伝行動は注目度は高く、横断幕をしっかりと見ていかれる方や話かけて来られる方も多く、「何かできることはないの？署名があれば署名するのに。」と言って行かれた方もありました。（現時点では署名活動はしていません。）

次回 宣伝行動 （呼びかけ ＪＡＬ闘争を支える京都の会）

１２月７日（火） 午後２時～３時 大手筋商店街